

桜花公園(鹿嶋市)

神の池飛行場

桜花の訓練場の場所に作られた

掩体壕と桜花のしづりカ

桜花とはどんな兵器か

桜花

「桜花」は頭部に爆弾を充填し尾部に推進ロケットを装備する高速滑空機で探検者1名が搭乗する有人ロケット爆弾です。昭和19年9月に試作機が完成しています。「桜花」は一式陸上攻撃機を母機とし、その腹下に懸吊されて「桜花」に移り、敵艦船とすると、桜花隊員が母機からロケットの舞入口を通過して、母機より離れロケットをの距離一万メートル最高高度三千メートル上空で、母機より離れロケットを貫射しつつ滑空して敵艦船に体当たりを行いました。展示は実戦に使われた桜花一一型です。神之浦基地での訓練に使われた練習機K-1は同型ですが色はオレンジで着陸用のソリを装備していません。練習機は練習機に爆弾と同量の水を載せ母機離脱後空中に放水しながら滑空し着地のソリで早の上を滑走するという危険なものでした。

桜花一一型

全長	6.07メートル	全高	1.16メートル
全幅	5.00メートル	全重量	2100kg(離陸時)

桜花写真



掩体壕



掩体壕の保存

えんたいこう

掩体壕

昭和19年4月神之池海軍航空隊がこの場所（現在の新日鐵住金株鹿島製鐵所の敷地となっている所）に開設され、ここで予科練や予備学生出身の将兵達が訓練していました。戦争が激しくなるにつれ、721航空隊と改称され神雷部隊として特攻機「桜花」の訓練基地となりました。この飛行場には、一式陸攻という双発機や零戦という戦闘機等が配備され、それらの飛行機を敵の襲撃から守るため格納庫から「掩体壕」に移しました。この掩体壕は上部を土で覆い、草や木を植えて敵機からわからないようにしたものです。このような掩体壕は飛行場周辺に十数箇所ありました。現在はこの掩体壕だけが残っています。

鹿嶋市在住 高野文男氏による

掩体壕の仕様

掩体壕概要

主要寸法

高さ 4.4m
間口 15.3m
奥行 13.0m

構造 コンクリート構造 コンクリート厚 25~70cm

工法

土で造った山の上に金網を敷きその上にコンクリートを流し、固まったあと、内部の土を掻き出して造られた、アーチ式構造で当時としては大規模なものである。

平成5年12月